

土つきばれいしょの輸入が

もたらすもの

ポテトエッセイスト 浅間和夫

わが国は世界でも有数の農産物の輸入大国になっており、食料自給率の低下が有事にからんで心配なところですが、ばれいしょの輸入については冷凍のフレンチフライ、乾燥粉末、剥皮チルドとして入ってきており、土つき生いもについては「植物防疫法第7条」の関係で現在その輸入は許されていません。しかし近年米国、オランダなどからばれいしょの輸入要請がきております。その受け入れは、輸入自由化に伴いある程度やむを得ない、と言う声もきかれますが、価格の安い化工澱粉などの輸入とは違って植物検疫上深刻な問題をはらんでいます。ここでは輸入に際して問題となる重要病害虫を紹介し、土を守ることの大切さを述べ、注意を喚起したいと思います。

1. 土を守るのは国の責任

「植物防疫法 第7条」では、有害動物又は有害植物、土又は土の付着する植物を、試験研究の用に供するために農林水産大臣の許可を受けたもの以外、輸入できないことになっています。

このような法律による輸入規制は、わが国だけが設けているものではなく、多角的防疫体制の枠組みの中で、国際的に調和させたものが必要であるとして、WTO（世界貿易機関）協定の一部である『衛生植物検疫措置の適用に関する協定（PSP協定）』の発効（1995年1月）に合わせて、各国が国際基準に基づく植物検疫を行っているものです。たとえば、「病害虫の危険解析（Pest Risk Analysis:PRA. 病害虫の潜在的定着能力、まん延能力、経済的重要性等により病害虫の

危険度を相対的に評価するもの）」に関するガイドラインもFAO（食糧農業機関）によって承認された国際基準です。

かつて海外から入った輪腐病（細菌）は、その撲滅のため、種いもをひとつひとつ個別検定をするなど、多大の負担をもたらしたことがあります。加えて後を書くような病害虫などを考慮しますと、土つきばれいしょの輸入には、深刻なリスクを伴うのは確実です。

このことを理解していただくため、仮に土つき生いもの輸入解禁などに伴ってわが国に侵入してきた場合、元の状態に戻すことが不可能であるなど、深刻重大な損害を与える恐れのあるものをひろって紹介してみると次のようなものがあります。

2. ばれいしょの輸入禁止対象病害虫

(1) 有害動物

① ジャガイモシストセンチュウ Golden nematode of potato

これに数種の系統（パソタイプRo1～Ro5）が知られています。この1系統Ro1が1972年北海道の一部地域で確認され、平成に入り長崎県でも認められました。線虫密度が高くなると、抵抗性のない「男爵薯」などでは収量は半作以下となってしまいます。他の4系統はわが国で未発生ですが、ヨーロッパ、ニュージーランド、北米などで発生しており、密度を0にするのは不可能とされています。このため、これら地区からの土つき生いものは許すわけにはいきません。

② シロシストセンチュウ White potato cyst nematode

PRAの結果、①に匹敵することが判明したものの。これにも幾つかの系統（Pa1～Pa3）があり、輸出をねらう国々には広く分布しています。

③ ニセネコブセンチュウ Fale root - knot nematode

ヨーロッパ、ロシア、北・南アメリカ、インドなどに発生し、トマト、ばれいしょ、フダンソウ属植物などの地下部に加害します。

栽培地検査の対象となる検疫病害虫、植物等に該当するものです。

④ コロラドハムシ Colorado beetle

ヨーロッパ、北アメリカなどに分布している重要害虫。寄生する植物の範囲は広く、ばれいしょだけでなく、キャベツ、アザミ属植物、モウズイカ属植物及びナス科植物があります。

ヨーロッパを例にしますと、警戒していたものが1874年にドイツで確認され、その後第1次世界大戦の際、周辺各地にまん延して、現在ではイギリス、フランス、その他広く欧州にひろまっています。

成虫・幼虫とも加害し、成虫の体長は7～10mm。翅鞘はオレンジ色で、5条の縦縞がある。幼虫の体長は15mmで赤く、頭部と脚は黒い。

⑤ ジャガイモヒメヨコバイ Potato leafhopper

ロッキー山脈の東側などを中心に発生し、年数世代を繰り返して幼虫と成虫が加害している重要害虫。セミを小型スリムにしたような虫。

(2) 有害植物

⑥ がん腫病 Wart

塊茎に、いぼないしカリフラワー状の癌腫を生ずる重要病害。世界各地で発生し、トマト

やとうがらしなどのナス科植物を侵します。

商品価値を下げるこの病気の撲滅はきわめて困難であり、厳重な検疫措置がとられています。



ヨーロッパ、ソ連、南アフリカ共和国、エクアドル、ペルー、ボリビア、チリ、ウアルグアイ、フォークランド諸島、インドなどに分布しています。

⑦ やせいも病 Potato spindle tuber viroid

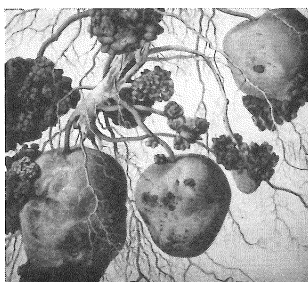
アメリカ合衆国、カナダ、ロシア、ペルー、アイルランド、ブルガリア、南アフリカ、韓国などに発生しているウイロイドです。

生育が劣り、塊茎に深い割れ目を生ずるもの。汁液伝染もするので警戒されています。

⑧ Potato yellow dwarf virus

アメリカの北東部諸州やカナダ南東部諸州などに分布しています。茎葉が黄化萎縮して、減収するもの。塊茎に褐色のえそを生じる。ヨコバイの一種が媒介するウイルスです。ナス科、マメ科、アブラナ科の植物にも寄生します。

わが国が島国であることが幸いし、これまでこれらの重要病害虫に汚染されずにきましたが、侵入を水際で阻止することが引き続き



▲がんしゅ病(横浜植物防疫所)

必要です。国には“土を守る責務”があると考えられますが、これは決して農業への過保護ではありません。